熊本県立劇場
文化事業

Arts and Culture Festival Opening Stage

ひこばえ
Hikobae

第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ

66th Kumamoto Prefecture

2024.
9.8［日］
14:00開演（13:15開場）
熊本県立劇場 演劇ホール

熊本県知事
木村 敬

「芸術を高め、文化を広め、次世代へつなぐ」をコンセプトに、多くの県民の皆様の御参加と御協力により、第66回熊本県芸術文化祭が盛大に開催できますことを、心から御礼申し上げます。

本日は、オープニングステージとして、日本を代表する「太鼓芸能集団 鼓童」から熊本県出身の前田順康氏を演出にお迎えし、スペシャルゲストの9名の奏者とオーディションで選抜された県内奏者、宇土雨乞い大太鼓保存会選抜メンバーが共演します。

そして、国指定重要有形民俗文化財である「宇土の雨乞い大太鼓」をはじめとした熊本県の和太鼓文化のフィーチャーステージや今回のオープニングステージのために作られた作品の初演など、熊本ならではのステージをお届けします。

和太鼓の力強い響きを全身で体感し、熊本の文化の魅力を感じていただけると幸いです。

結びに、オープニングステージの開催にあたりお力添えいただいた「太鼓芸能集団 鼓童」の皆様をはじめ、本芸術文化祭の開催にあたり御尽力を賜りました多くの関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、県内各地で繰り広げられる芸術文化祭の多彩な催物の成功と、皆様の益々の御活躍を祈念いたします。

熊本県文化協会会長
村上輝和

熊本県芸術文化祭のオープニングステージは「ひこばえ」を実施いたします。

「熊本県芸術文化祭」は平成17年に、それまで民間中心で行われてきた「熊本芸術祭」と昭和62年に熊本県内で実施された「第2回国民文化祭」の翌年から、県が実施してこられた県民文化祭が一本化され、新たにスタートしました。そのスローガンは「芸術を高め・文化を広め・次世代へつなぐ」です。

本年のテーマは、「和太鼓」で、1部では国指定重要有形民俗文化財である「宇土の雨乞い大太鼓」を始め、熊本の和太鼓文化をフィーチャーし、県内の大太鼓打ちが力強い響きと熊本の文化の魅力を発信します。

2部では、「ひこばえ」(樹木を切った切株や、根元から新たに生まれてくる若芽) を、県内から集まった太鼓演奏家の皆様と、書き下ろしの楽曲、太鼓音楽の名曲や世界初演となる、藤倉大さんの楽曲をそれぞれ演奏します。
日本の国内外で公演し、皆様がよくご存じの「太鼓芸能集団 鼓童」との共演。そして、鼓童の前田順康さんが演出されます。

皆様方にさぞや太鼓の魅力を感じてもらえること信じています。

結びに、ご尽力いただきましたスタッフ・実行委員会の皆様に御礼申し上げまして、ご挨拶と致します。

第66回熊本県芸術文化祭
オープニングステージ 演出
太鼓芸能集団 鼓童
前田順康

第66回熊本県芸術文化祭の開催、誠におめでとうございます。

和太鼓は数百年を生きた樹木から作られます。そして、太鼓になってからも、さらに数百年と叩き継がれ、その響きは、悠久の時間を感じさせます。

宇土の太鼓文化に象徴されるように、古来、太鼓は村の中心にあり、人々を結んできました。では、ムラが解体されていく現代において、太鼓の役割は終わってしまったのでしょうか？

そんなことはなく、時代に合わせて変容しながら、私たちを繋いでくれる存在であると信じています。そんな、これからの太鼓について、みんなで思いを馳せたく、県内の太鼓演奏家のみなさんに広くご参加いただきました。

今回、プログラムを「ひこばえ」と名付けました。先人たちが守ってきた楽器があり、文化があることで、私たちはいま、太鼓を叩いています。この作品が、和太鼓の歴史、熊本県の太鼓文化、その大きな流れや文脈のなかで、ひとつの終着点ではなく、新たな起点となることを願っています。

前田順康（まえだ・まさやす）／熊本県菊池市出身。2014年鼓童研修所へ入所。2017年より正式メンバー。2020年からは交流学校公演のチームリーダーとして、出演に加え構成を担当。作曲や外部指導も行い活動の幅を広げている。ソロ活動として2021年8月、東京2020パラリンピック開会式に出演。2022年3月AR三兄弟「バーチャル身体の祭典VIRTUAL NIPPON COLOSSEUM」に出演。2024年には、鼓童浅草特別公演にて『とこしえ』を演出し、鼓童の舞台演出においても大いに飛躍をみせている。新しい地球文化を創造する祭典「アース・セレブレーション」においては、2022年より舞台演出を手掛け、本年2024年には、ウガンダより初来日となるNAKIBEMBE EMBAIREGROUPとのセッションにおける演出・構成によって、国境を越えた新たなクリエイションを実現している。

熊本県立劇場館長
姜尚中

熊本県芸術文化祭は66回目を迎えることになりました。そのオープニングステージのテーマは、「和太鼓」です。祭り囃子や神社の祭礼に欠かせない和太鼓の歴史は古く、日本列島では縄文の時代にまで遡ると言われています。

アジアのパーカッションの伝統の中でも日本の和太鼓は独特で、その演奏は二拍子の繰り返しか、四拍子の繰り返しが多く、音が単純なようで、精妙な響きを奏で、そのリズムによって和太鼓は千変万化する音色を届けてくれます。同時にそれは、天と地と共鳴し合う始原的な音色でもあります。

オープニングステージでは、国の重要有形民俗文化財に指定されている「宇土の雨乞い太鼓」などを通じて熊本県の和太鼓の文化を堪能してほしいと思います。そして日本を代表するプロ集団「太鼓芸能集団 鼓童」の圧倒的なパフォーマンスを通じて和太鼓の現代的な醍醐味を全身で愉しんで欲しいと願っています。

鬼塚栄男

日本太鼓財団熊本県支部長
熊本県太鼓連合会長

本日は第66回熊本県芸術文化祭のオープニングステージ「ひこばえ」にお越しいただき誠にありがとうございます。

この芸術文化祭は、熊本県の芸術と文化を称えるイベントであり、地域の魅力を広く発信する場でもあります。このオープニングステージを和太鼓で飾ることができ大変うれしく思います。

当県は、ジュニアコンクール県予選に、毎年30を超えるチームがエントリーする程、和太鼓の盛んな地域であります。これは日本一のエントリー数を誇る県予選となっております。

和太鼓は、日本の代表的な楽器であり、その力強さと響きは、世界各国の数々の人々を魅了し続けてきました。

日本を代表する「太鼓芸能集団 鼓童」の演奏に、熊本県内より選抜されたこの「ひこばえ」達が加わり、現代版の太鼓音楽を披露してくれることでしょう。

和太鼓の響きに身を委ね、迫力（音）と美しさ（パフォーマンス）を感じて下さい。ありがとうございます。

柏木博光

熊本県太鼓連盟会長

第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「ひこばえ」において、県内出身の前田順康さんが総合演出するという事で、熊本県太鼓連盟も協力、加盟団体からもオーディションを受け、選抜メンバーが参加することになり、本番に向けてしっかり練習し、準備してきました。

「ひこばえ」とは、樹木の切り株から生える若芽・新芽を言い、周りの老木や自然が成長を促します。今ステージでは、若き参加者一人一人が、今までの演奏技術や考え方の垣根を越えて、ステージ上でみんなが一つになり、太鼓演奏を通して、新たな和太鼓の世界を体験する事でしょう。本日ご来館いただいた皆様と一緒にその世界を楽しみたいと思います。

本日は、第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「ひこばえ」にご来場いただき本当にありがとうございます。

三輪一浩

宇土雨乞い大太鼓保存会会長

第66回熊本県芸術文化祭の開催、誠におめでとうございます。県下最大の芸術文化の祭典である本文化祭のオープニングステージにおいて、「宇土雨乞い大太鼓フィーチャーステージ」が催されることを大変うれしく思います。

「宇土の雨乞い大太鼓」は、古くから雨乞いや豊作を祈願する地域の行事で使用され、宇土の人々にとって身近な存在でした。しかし、戦後の急速な社会変化により雨乞い行事も行われなくなり、大太鼓も革が破れたまま放置されたものもありました。
そのようななか、平成に入る頃、地元有志が立ち上がって雨乞い大太鼓の保存運動を展開。大太鼓復活の機運が高まり、今から35年前の「ふるさと創生事業」で、太鼓の修理や革の張替が行われ、「宇土大太鼓フェスティバル」などのイベントや地域の行事で積極的に活用されるようになりました。また、文化財としての価値も認められ、平成29年に国の重要有形民俗文化財に指定され、名実ともに「宇土の宝」となっています。

本日は、全国的に有名な「太鼓芸能集団 鼓童」のメンバーや県内のオーディションで選ばれた太鼓奏者とともに、宇土雨乞い大太鼓保存会の選抜メンバーが演奏を披露すると聞いております。宇土の雨乞い大太鼓の迫力ある響きを存分に体感していただきたいと思います。

結びに、準備から開催まで御尽力された全ての皆様に心より感謝申し上げるとともに、本日御出演の皆様の御活躍を祈念いたします。

第1部　宇土雨乞い大太鼓フィーチャーステージ

『呼（よぶ）～大太鼓～鼓行（こうこう）～黙（しじま）～こだま～モノクローム～大太鼓～木星（きぼし）』

地代純、三浦康暉、米山水木、前田順康、平田裕貴、小野田太陽、定成啓、野仲純平、小川蓮菜、倉岡良枝、田中理雄、橋本華花、林田智優、松本倫果、森寛人

第2部　熊本県芸術文化祭オープニングステージ委嘱作品初演

藤倉大『Pulsing ～パーカッショングループのための』

地代純、三浦康暉、米山水木、前田順康、平田裕貴、小野田太陽、定成啓、野仲純平、小川蓮菜、岩崎力樹、鬼塚花帆、坂井章加、田中理雄、NAVIN NICHOLAS AKAMINE*、堀田衣未、本田真子、松本真帆、松本倫果

前田順康（太鼓芸能集団 鼓童）『ひこばえ』

地代純、三浦康暉、米山水木、前田順康、平田裕貴、小野田太陽、定成啓、野仲純平、小川蓮菜、井島昂星、岩崎綸緒、岩崎力樹、鬼塚花帆、小野寺茉晴、改原鵬、加藤晴菜、木島月、坂井碧仁、坂井章加、田中理雄、NAVIN NICHOLAS AKAMINE*、堀田衣未、本田真子、松本真帆、松本倫果、山本翔之介、米満将太

※共に世界初演

第1部 宇土雨乞い大太鼓フィーチャーステージ

『呼(よぶ)～大太鼓～鼓行(こうこう)～黙(しじま)～こだま～モノクローム～大太鼓～木星(きぼし)』

作編曲・構成　太鼓芸能集団 鼓童　前田順康

『モノクローム』作曲　石井眞木

第1部は宇土の雨乞い大太鼓をフィーチャーした内容です。鼓童のメンバーと、宇土を拠点に活動する太鼓演奏家のみなさんでの共作となります。

宇土の雨乞い大太鼓、そして太鼓音楽のこれまでの歩みが感じられるよう、多角的に捉えて構成をします。さらに、太鼓のみでのアンサンブルだけでなく、太鼓を取り巻く環境、そしてそれらの音をピックアップしたメロディやアンビエントも散りばめて楽曲作り、音作りをしてきました。宇土の街を歩き、この風の音や虫の声はきっと350年前も宇土の人々の耳に入っていただろうなと感じたことに着想を得た楽曲もあります。

また、それらの書き下ろしの楽曲に加え、現代の太鼓音楽を新しい領域へと飛翔させた「モノクローム」(1976年作曲) にも今回チャレンジします。太鼓のもつ郷土性を敢えて取り去ることで、音色自体の持つ強烈な個性に私たちの聴覚をフォーカスさせる楽曲です。

要素を解体し、再構築することで、普遍的な太鼓の魅力を私たち自身も考えてみたいと思います。

宇土の雨乞い大太鼓とは

宇土太鼓文化研究所　髙田大介

宇土の雨乞い大太鼓は江戸から明治にかけて製作された直径3尺（90㎝）を超える欅のくりぬき胴の大太鼓で、長胴の大太鼓の鼓面両縁には木星(きぼし)と呼ばれる特徴的な14面体の飾りがつけられています。現在26基の大太鼓が復元されており、ひとつの地域にこれほど大太鼓が現存する例は全国でも類を見ないものとして、2017年に国指定重要有形民俗文化財に指定されました。

宇土市では、かつて夏の干天時の雨乞いをはじめ、田植後のサナブリ※や八朔の豊年祭りなどのときに、大きな太鼓を担ぎ出して叩き、降雨や豊作を祈願する祭が伝承されてきました。その祈願祭の中心にあったのが雨乞い大太鼓であり、地域コミュニティの核として、各地区が競い合うように大きな太鼓を作り、地区の力を誇示するシンボルとして大切に継承されてきました。しかし、これらの祭は戦後次第に衰退し、大太鼓も神社や寺に放置され、やがて朽ち果てていった太鼓もありました。

1973年、椿原地区の大太鼓の修復をきっかけに、大太鼓再興の気運が高まり、1989 ～ 91年ふるさと創生事業の一環として、現存する大太鼓の調査、補修が行われ26基が復元し、1993年には当時熊本県立劇場館長であった故 鈴木健二氏の全面的な支援により「新伝承・宇土大太鼓26」が創作され、文化復興は大きく前進しました。

一度は廃れかけた宇土の雨乞い大太鼓は、太鼓そのものの価値はもちろん、そこに集う人の熱意や想いをはらんだ「共感共同体」として、多くの人々の心を惹きつけ、現在では宇土市を代表する芸能として昇華し、まさしく「宇土の宝」となっています。

宇土の雨乞い大太鼓は、単なる楽器ではなく、江戸時代から現代に至るまで脈々と叩き継がれてきた、人々の繋がりの象徴であり、今を生きる私たちのDNAに刻まれた歴史なのです。

※サナブリ…田植えの終わりに田の神を送る行事

第2部 熊本県芸術文化祭オープニングステージ委嘱作品初演

「Pulsing ～パーカッショングループのための」

藤倉 大

この作品は、鼓童のメンバーを中心に、様々な規模の太鼓奏者団体が演奏できるように、とのリクエストを受けて作曲しました。鼓童は、イギリスに長く住んでいる僕やヨーロッパ人の妻も、昔から大ファンであり、今回彼らと関わる作品を作る機会を得たことに大変興味を抱きました。

作曲前のミーティングで、演奏中に動き回る演出も取り入れたいと聞き、これこそが鼓童らしいと感じました。僕は、そうした演奏者側の創造性を、僕の楽譜による制約で縛ってしまっては、良い結果が生まれないかもしれないと考えました。なので、依頼された演奏時間より多めに音符を書き、どんな楽器で弾くか、どの部分を省略して演奏するか、繰り返すか、その時々の演出で自由にしてくださって良いですよ、とお伝えしました。リハーサルの動画も見せてもらい、意見交換をしながら進めています。最終的にどのような演出になるのか、僕自身も非常に楽しみにしています。

藤倉 大（ふじくら・だい）／作曲家◎大阪府生まれ。15 歳で渡英。数々の作曲賞を受賞、国際的な委嘱を手掛けている。2015 年 3 月に、シャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱によるオペラ「ソラリス」が世界初演され、高い評価を得た。17 年から毎年東京芸術劇場で開催の「ポンクリ・フェス」の芸術監督を務める。https://www.daifujikura.com/

「ひこばえ」

太鼓芸能集団 鼓童　前田順康

「熊本」と聞いて、思い起こす風景がそれぞれにあると思いますが、それらの風景をコラージュし、「実際には存在しないけれど、確実に自分たちの頭の中にある熊本の姿」が音になるといいなと考え、創作を進めました。

太鼓は打楽器です。それゆえに、そのリズムに着目されることが多いように感じます。しかし、遮蔽物が無ければ、3.8 キロメートル先まで音が届くという実験結果があるように、大きく豊かな響きも魅力のひとつだと考えています。楽曲の中では、打ち手がリズムから離れ、自身もその響きを味わえるような仕掛けを作りました。

また、動物の革と樹木から成る楽器であるため、材料や大きさを揃えても、個体によって音色が異なってきます。これは私たち人間にも共通することだと思っています。外殻は似ていても、それまでの歩みはそれぞれに異なり、考えや信じるものも様々です。その枠を超え、それぞれの音が重なり、溶け合い、大きな響きとなる。シンプルな楽器から、一言では形容できない、複雑で豊かなアンサンブルが生まれます。そのポイントに着目し、みんなで大きなうねりを生むことにアプローチをしました。

「ひこばえ」は、いくつかの楽章に分け、それぞれ独立しての演奏を可能にしました。この楽曲が、この先も、それぞれの場所で、形を変えながら叩き継がれていくことがあれば幸いです。

太鼓芸能集団 鼓童

太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見いだし、現代への再創造を試みる集団。1981年、ベルリン芸術祭でデビュー。以来世界50以上の国と地域で7,000回を超える公演を行う。劇場公演の他、小中高校生との交流を目的とした「交流学校公演」や、多様なジャンルのアーティストとの共演、国際芸術祭、映画音楽等へ多数参加している。2012年から2016年まで歌舞伎俳優・坂東玉三郎氏を芸術監督に招聘。近年は石川さゆり、初音ミク、AI、MIYAVIらと共演。2019年は「ラグビーワールドカップ2019日本大会」開会式、国立競技場のオープニングイベントに出演。最近では、読売巨人軍とのコラボレーションやオンラインゲーム「原神」の音楽にも参加するなど更に活動の幅を広げている。2023年、令和5年度文化庁長官表彰。

地代 純

高校時代、和太鼓部での活動を経て2011年研修所入所。2014年よりメンバー。持ち前のキャラクターを活かしたコミカルな演目にも定評がある。しなやかな身体表現と柔らかな感性に加え、幅広い対応能力を備えたマルチプレイヤー。2018年より鼓童の舞台演出にも挑戦するほか、現在では太鼓の指導にも積極的に取り組み、日本のみならず、アメリカ、ヨーロッパ、中国などの海外ツアーでもワークショップの講師を担当。また2021年より鼓童文化財団研修所で研修生の育成に携わるとともに、オンラインでの太鼓の指導「鼓童 太鼓の学校」の講師も務めるなど活動の幅を広げている。

三浦康暉

高校の部活動で和太鼓に出会う。2011年研修所入所。2014年よりメンバー。舞台では主に太鼓、踊り、鳴り物、唄を担当。2020年からの海外ツアーでは「大太鼓」のソリストを務める。また踊りも得意とし、舞台では多くの場面で存在感を発揮している。2020年初演の鼓（つづみ）では「ヒトヒ」、2021年童（わらべ）では「興」と、佐渡島内の芸能を取り入れた作舞を担当するなど、各地の芸能に学びつつ新しい演目作りに取り組んでいる。近年は若手メンバーや研修生の指導にも力を注ぐ。

米山水木

2歳から太鼓を始める。2013年研修所へ入所。2016年より正式メンバー。即興性に富んだ舞台経験を積む。安定感とパワフルな演奏に、華やかな笑顔が印象的な太鼓奏者。2020年「アース・セレブレーション」では女性メンバーを中心とした小編成公演「おんな座Beach」の演出を担当。「WUTTAR ～海～」などの楽曲の作曲を行い、メンバーの弾けるような魅力を印象づけた。「鼓（つづみ）」公演の「入破（じゅは）」と「族」のソリストを、北林玲央とのダブルキャストで担当。これからの鼓童の、新しい時代の女性奏者として活躍が期待される。

平田裕貴

幼い頃より太鼓に親しんで育つ。2015年研修所入所。2018年正式メンバー。太鼓にとどまらず笛や鳴り物なども担当し、さまざまな演目での歌心ある表現が印象的。近年は「大太鼓」の裏打ちや「モノクローム」の中心奏者など、舞台の中核的な役割も務める。作曲、編曲、音源の制作や、鼓童の公式X運営など舞台以外の活動にも取り組む一方、「アース・セレブレーション」をはじめとする舞台の演出構成を手掛ける機会も多い。近年のMIYAVI氏や初音ミクとのコラボレーションの実績を経て、他ジャンルのアーティストとの創作にも意欲を示す。観客を「沸かせる」ライブパフォーマンスのスペシャリスト。

小野田太陽

アメリカ・カリフォルニア州出身。2016年研修所へ入所。2019年より正式メンバー。生真面目な性格で、与えられた役割をしっかりと果たし着実に信頼を重ねている。研修所入所前は大学で食品科学と日本語を専攻。料理上手で、栄養面などの知識も豊富。将来の夢は、鼓童での活動を通じて、育ててもらったアメリカの太鼓界をさらに盛り上げていくことと語る。舞台での活動に加え、最近は舞台にまつわる動画制作にも取り組むほか、2021年からは「鼓童 太鼓の学校」の講師として、長年鼓童が築いてきた太鼓の「心・技・体」を世界の太鼓コミュニティに伝えている。

定成 啓

小学1年生より太鼓グループで活動。2017年研修所へ入所。2020年より正式メンバー。舞台では主に太鼓を担当。目下、基礎稽古に重きを置きつつ、大きな太鼓での力強さも、担ぎ桶や太鼓セットでの細やかさも打ちこなせるマルチな演者を目指している。2020年「鼓（つづみ）」ツアーの「ヒトヒ」での抜擢を機に踊りにも挑戦し、表現の幅を広げているほか、近年では舞台の中心的ポジションを担うようにもなり、鼓童の舞台をリードする一面にも期待されている。クールな表情とは裏腹に、時折見せるエモーショナルな演奏によって多くの人を魅了し続けている。

野仲純平

2018年研修所へ入所。2020年準メンバー。2021年正式メンバー。6歳から三宅太鼓の教室に通い始める。舞台では主に、太鼓、笛を担当し、胡弓や能管にも挑戦中である。2022年の「鼓（つづみ）」公演では、屋台囃子の中太鼓を担当。一発の音の質にこだわるとともに、弦楽器で深い情感を表現できる演奏者を目指し、着実かつ誠実に日々の稽古を重ね、舞台のどこに立っても凛とした存在感を示してきている。優しさに満ち溢れた人間性で鼓童内外誰からも慕われているほか、明るく親しみやすい笑顔で、太鼓の魅力を世界中に広げ続けている。

小川蓮菜

2020年研修所へ入所。2022年より準メンバー。2024年より正メンバー。これからの抱負は「全国や世界に響く太鼓の音色を楽しむと共に、鼓童の舞台に新しい花を咲かせ続け精進していきたい。」と語り、若いキャリアながらも鼓童の一員として、さっそく新たな可能性を切り拓きはじめている。持ち前の明るさは周囲の人々を魅了するほか、近年テレビドキュメンタリーなどでも起用されて人気を博している。鼓童の新しい時代を担うプレイヤーとしての片鱗も既に感じさせはじめ、鼓童の「花」となっていくことに、多くの期待が寄せられている。

井島昂星
（和楽集団 昂）

岩﨑綸緒
（和太鼓輝-HIKARI-）

岩﨑力樹
（和太鼓輝-HIKARI-）

鬼塚花帆
（城南火の君太鼓、肥ノ國太鼓衆真紅舞）

小野寺茉晴
（和楽集団 昂）

改原 鵬

加藤晴菜
（096k熊本歌劇団、高森町風鎮太鼓）

木島 月
（肥ノ國太鼓衆真紅舞）

倉岡良枝
（宇土天響太鼓）

坂井碧仁
（和楽集団 昂）

坂井章加
（和楽集団 昂）

田中理雄
（太鼓芸能集団 紬衣）

NAVIN NICHOLAS AKAMINE
（玉名太鼓振興会）

橋本華花
（太鼓芸能集団 紬衣）

林田智優
（太鼓芸能集団 紬衣）

堀田衣未
（肥ノ國太鼓衆真紅舞）

本田真子
（096k熊本歌劇団、高森町風鎮太鼓）

松本真帆
（肥ノ國太鼓衆真紅舞）

松本倫果
（太鼓芸能集団 紬衣）

森 寛人
（太鼓芸能集団 紬衣）

山本翔之介
（和楽集団 昂）

米満将太
（託東太鼓）

2024.
1.13(SAT)
Audition

2024.
April-
September
Creation

【実行委員会】

村上輝和	熊本県文化協会会長（実行委員長）
姜尚中	（公財）熊本県立劇場館長
富永隼行	熊本県企画振興部長
白石伸一	熊本県教育委員会教育長
梅野智博	熊本日日新聞社事業本部長
田中晋	NHK熊本放送局コンテンツセンター長
柴垣正矢	株式会社熊本放送取締役報道制作局長
井澤利治	株式会社テレビ熊本取締役営業局長
赤星裕一郎	株式会社熊本県民テレビ営業局長兼事業局長
細谷英宣	熊本朝日放送株式会社地域プロモーション局長
桐原直岐	株式会社エフエム熊本総務技術部長

【監事】

松岡雅美	熊本県文化協会事務局次長
佐方美紀	熊本県文化企画・世界遺産推進課長

【制作】

佐藤奈々絵	（公財）熊本県立劇場事業グループ長
中野萌	（公財）熊本県立劇場事業グループ副長
永野祐広	（公財）熊本県立劇場事業グループ副長
濱野史織	（公財）熊本県立劇場事業グループ主任
山﨑拓哉	（公財）熊本県立劇場事業グループ主任
井田智子	（公財）熊本県立劇場事業グループ主任

【事務局】

古谷秀晴	熊本県文化協会事務局長
成田厚子	熊本県文化協会事務局主任
吉良香織	熊本県文化協会事務局書記
吉村修一	熊本県文化企画・世界遺産推進課主幹
野中琢匡	熊本県文化企画・世界遺産推進課主事

主催＝熊本県芸術文化祭実行委員会
（熊本県文化協会、熊本県、（公財）熊本県立劇場、熊本県教育委員会
熊本日日新聞社、NHK熊本放送局、RKK、TKU、KKT、FMK、KAB）
後援＝熊本市、FM791

協力＝熊本県太鼓連合、熊本県太鼓連盟、宇土雨乞い大太鼓保存会
宇土市民会館、宇土太鼓文化研究所、（株）北前船、（公財）鼓童文化財団

文化庁文化芸術振興費補助金
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

プログラム
発行：公益財団法人 熊本県立劇場
デザイン：秋澤一彰
発行日：2024年9月8日 禁無断転載